

留学生共通日本語

# 日本語（上級）

日本語教育センター

# 留学生共通日本語：「日本語（上級）」について

必修・選択必修の「日本語」とは別に、留学生共通日本語として「日本語（上級）」が和泉キャンパスと駿河台キャンパスで開講されています。必修・選択必修の「日本語」に加えて、「日本語（上級）」も受講できますので、日本語の力をもっと高めたいと考えている留学生は積極的に受講してください。

この科目の取扱い窓口は日本語教育センター（国際教育事務室）です。  
必修・選択必修の「日本語」とは異なりますので、注意してください。

授業内容は次のとおりです。

## ◆和泉キャンパス

- 「日本語（上級口頭表現）A・B」
  - ・聴解および発表（プレゼンテーション）
- 「日本語（上級文章表現）A・B」
  - ・文章表現練習（レポート・小論文）

## ◆駿河台キャンパス

- 「日本語（上級総合）A・B」
  - ・総合的な運用能力を高める

必修・選択必修の「日本語」ではできない様々な活動を行いながら授業が進められます。

# I 履修について

1. 日本語（上級）を受講できる者は、以下の通りです。

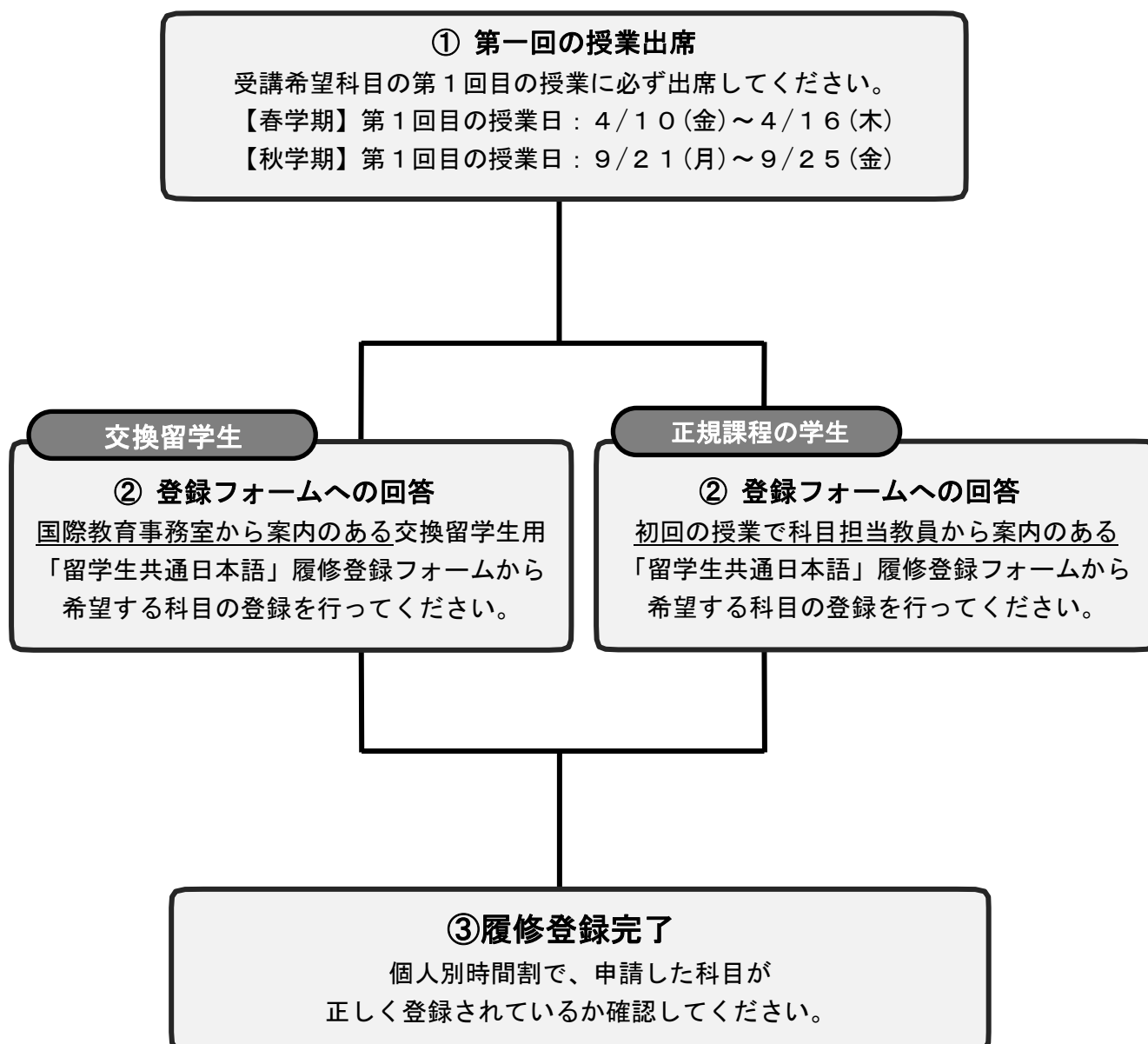
	学部	大学院	専門職大学院
正規課程の学生	○		○（注）
交換留学生	○（注）		

（注）以下の①か②に該当する者

- ①日本語教育センターが実施するプレースメントテストで「上級レベル」と判定された人
- ②日本語教育センターが開講する「留学生共通日本語」の「日本語8」を修了した人

2. 日本語（上級）を履修した場合、単位を修得することができます。修得した単位を卒業要件に含めることができるかどうかは、学部によって異なります。各学部の単位取扱いについては、133ページ以降を確認してください。

3. 履修登録の流れについて



4. 成績評価基準について

成績評価基準は以下のとおりです。成績は、S・A・B・C・Fで記載されます。

S・A・B・Cを合格とし、Fを不合格とします。

評価	評点	GP (グレードポイント)
S	100~90点	4
A	89~80点	3
B	79~70点	2
C	69~60点	1
F	60点未満 (および未受験)	0

※ 学部によっては未受験をFではなく、Tと記載する場合があります。

5. 日本語 (上級) の定員は15名です。

6. 履修登録を行った後の履修取消しは、原則としてできません。よく考えてから履修登録をしてください。

7. 一度単位を修得した科目は、再び履修することはできません。

8. 日本語 (上級) について不明な点があれば、日本語教育センター (国際教育事務室) に問い合わせてください。

駿河台 キャンパス	グローバルフロント 2階	電話 : 03-3296-4146 <a href="mailto:japanese@meiji.ac.jp">japanese@meiji.ac.jp</a>
--------------	--------------	---

## **Ⅱ 時間割**

### **および単位取扱い表**

## 2026年度 留学生共通日本語「日本語（上級）」時間割

時限	1時限目				2時限目				3時限目			
時間	9:00～10:40				10:50～12:30				13:30～15:10			
	科目	教室	担当者	開講区分	科目	教室	担当者	開講区分	科目	教室	担当者	開講区分
月									日本語（上級総合）A	駿河台 リハビリター 1062教室	坂井	春
									日本語（上級総合）B	駿河台 リハビリター 1062教室	坂井	秋
火												
水									日本語（上級口頭表現）A	和泉 メディア棟 M613教室	酒井	春
									日本語（上級口頭表現）B	和泉 メディア棟 M613教室	酒井	秋
木												
金									日本語（上級文章表現）A	和泉 第一校舎 205教室	黒崎	春
									日本語（上級文章表現）B	和泉 第一校舎 205教室	黒崎	秋

## 留学生共通日本語「日本語（上級）」の単位取扱い表

科目名	開講区分	単位数	学部別取扱								国 日		総数
			法	商	政	文	理	農	営	情コ	通常 コース	インク リッシュ トラック	
日本語（上級総合）A	春学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
日本語（上級総合）B	秋学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
日本語（上級口頭表現）A	春学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
日本語（上級口頭表現）B	秋学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
日本語（上級文章表現）A	春学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
日本語（上級文章表現）B	秋学期	1	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎

【記号の見方】

○ 卒業要件外として単位修得が可能な科目

◎ 卒業要件に含めて単位修得が可能な科目（65ページの単位取扱いの説明を参考にしてください）

## 留学生共通日本語「日本語（上級）」の卒業要件単位への単位認定取扱い

ここでは、留学生共通日本語「日本語（上級）」を学部の卒業単位に含める場合の単位認定取扱いについて説明します。詳細は、所属学部から配付される便覧・シラバスを確認してください。

### 1. 法学部

修得した単位は、上限がありますが、卒業要件の自由選択科目の単位として認定します。

ただし、4年次春学期の履修登録時に所定の手続きを行う必要があります。詳細は入学年度の「法学部便覧」を確認してください。

### 2. 商学部

卒業要件外としてのみ、単位修得が可能です。

### 3. 政治経済学部

留学生共通日本語科目の修得単位は、政治経済学部の外国語科目における卒業に必要な単位数に算入します。詳細は「2026年度政治経済学部シラバス」の外国語科目に係る卒業要件を確認してください。

### 4. 文学部

卒業要件外としてのみ、単位修得が可能です。

### 5. 理工学部

卒業要件外としてのみ、単位修得が可能です。

### 6. 農学部

卒業要件外としてのみ、単位修得が可能です。

### 7. 経営学部

#### 【2016年度以前入学者】

修得した単位は、上限がありますが、自由履修科目として、卒業に必要な単位数に算入されます。詳細は入学年度の「経営学部便覧」を確認してください。

#### 【2017年度以降入学者】

修得した単位は、外国語科目の単位として、卒業に必要な単位数に算入されません。詳細は入学年度の「経営学部便覧」を確認してください。

### 8. 情報コミュニケーション学部

単位修得した場合に、上限がありますが、学部設置科目外の卒業単位認定科目に含めることを認めます。詳細は「2026年度情報コミュニケーション学部シラバス」の「卒業・進級・卒業見込に必要な単位（該当する入学年度）」のページを確認してください。

### 9. 国際日本学部

卒業要件外としてのみ、単位修得が可能です。

### 10. 総合数理学部

修得した単位は、留学生共通日本語科目として、卒業に必要な単位数に算入することができます。詳細は「総合数理学部便覧」を確認してください。

# Ⅲ 授 業 内 容

科目ナンバー	(JE) LAN981J
科目名	日本語（上級総合）A
担当者	坂井 菜緒
<b>1. 授業の概要・到達目標</b>	
【概要】 大学の専門科目できちんとした学びができる総合的な日本語能力を高めることを目的とする、資料収集・読解・要約・プレゼンテーション・質疑・ディスカッションなどの活動を行う。また、日本語のニュースを取り上げることで、時事日本語に触れ、幅広い語彙力をつける。特に大学卒業後を見据え、一般社会で通用する日本語力を身につける。	
【到達目標】 ・専門科目の授業で、日本語でテキストや資料を読み解き、自分の言葉でパラフレーズすることができる。 ・外部資料を使用して、根拠を示しながら自分の意見を述べるができる。 ・研究活動に必要な大学内外のさまざまなリソースにあたり、自分の研究に活かすことができる。 ・クラス内発表時のマナーを守り、聞き手を意識しながら説得力のある発表を行うことができる。	
<b>2. 授業内容</b>	
第1回：イントロダクション・自己紹介 第2回：課題1：発表テーマの決定 第3回：プレゼンテーション練習：身近なテーマについて話す 第4回：フィードバック 第5回：課題2：企画を作る：プレゼンテーションの基礎（1） 第6回：企画を説明する：プレゼンテーションの基礎（2） 第7回：企画を実践する（フィールドワーク） 第8回：フィードバック（自分のプレゼンテーションの録画を見る、他） 第9回：プレゼンテーション準備、ディスカッション（1） 第10回：プレゼンテーション準備、ディスカッション（2） 第11回：発表原稿の用意、プレゼンテーション資料作成 第12回：録画（1） 第13回：フィードバック／録画（2） 第14回：課題提出、グループ発表、まとめ	
<b>3. 履修上の注意</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、各学部の留学生が必修日本語科目に加えて選択できる科目である。</li> <li>・また、正規課程の外国人留学生（学部）に加えて、交換留学生と専門職大学院生も履修可能である。交換留学生と専門職大学院生は、プレースメントテストの結果、「上級レベル」にプレースされた学生が履修可能である。</li> <li>・詳しくは、シラバス（冊子版）の128ページに記載してある「I 履修について「1. 日本語（上級）を受講できる者」」を確認して欲しい。</li> <li>・授業に関する連絡、課題に関する指示などは電子メールやクラスウェブを利用して行う。</li> <li>・授業のスケジュールおよび内容は、履修学生の人数、レベル、理解、興味関心などにより変わることがある。</li> <li>・基本的には、全出席前提で授業を行うので、なるべく遅刻・欠席はしないようにすること。 もし遅刻・欠席したときは、自分で次のクラスまで何をすべきかを確認し、準備して出席すること。</li> <li>・授業内では、グループ活動やペア活動もある。</li> </ul>	
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションのための準備は授業中にも行うが、授業中に終わらなかった作業を課題として課す場合がある</li> <li>・授業での練習・発表の録画ファイル、音声ファイルを各自で確認し、問題点を整理した上で次の練習に役立てる予定。</li> </ul>	
<b>5. 教科書</b>	
授業時にハンドアウトを配布	
<b>6. 参考書</b>	
授業時に指示	
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b>	
授業での発表は原則として全て録画し、クラス全員で改善点を話し合う。	
<b>8. 成績評価の方法</b>	
発表課題（40%）、普段の授業での活動（30%）、最終課題（30%）により、総合的に評価する。 単位認定をするためには2/3以上の出席が必要である。	
<b>9. その他</b>	
様々な外部資料を整理しながら理解し、自分の言葉でまとめること、また、自分の考えを述べる時にそれを効果的に利用し、説得力を持った形で分かりやすく伝えることは、大学での学びにおいてだけではなく、卒業後、一般社会に出てからも必要不可欠な能力である。日常会話レベルではなく、公的な場での日本語の使い方をきちんと身につけることが上級の学生にとっては必要である。特に、日本での進学や就職を考えている留学生は、是非、フォーマルな場での適切な日本語の使い方を学んでもらいたい。	

科目ナンバー	(JE) LAN981J
科目名	日本語（上級口頭表現）A
担当者	酒井 知子
<b>1. 授業の概要・到達目標</b> 【概要】春学期は、大学生活や社会生活で直面する「特定の場面」を想定したトレーニングを中心に行う。敬語や配慮表現を使いこなしたい者、論理的な議論の型を身につけたい者に受講を推奨する。 ・場面別ロールプレイ： 依頼や断り、苦情への対応など、相手の感情を逆なですず主張を伝える高度な配慮表現を学ぶ。 ・ディスカッション： PREP法などを用い、時事ニュースに対して論理的に意見を述べる技術を習得する。 ・合意形成の練習： イベント企画会議などを通して、他者の意見を尊重しながら妥協案を提示し、結論へ導くプロセスを体験する。 ・ディベート： 難易度の高いテーマを扱い、即興で行う。予期せぬ質問への応答力を鍛える。 【到達目標】 第一に「場面（TP0）への適応」として、敬語や配慮表現を状況に応じて駆使し、複雑な人間関係においても円滑に意思疎通を図る技術を磨く。第二に「論理的発信」では、PREP法などを用いて自分の意見を根拠と共に構造化し、説得力を持って伝える構成力を養う。第三に「即興性」に重点を置き、予期せぬ質問や反論に対しても、詰まることなく適切に回答できる瞬発力を鍛える。	
<b>2. 授業内容</b> 第1回：イントロダクション 印象的な自己紹介（場面に応じた自己紹介） 第2回：ロールプレイ：依頼・断り（上級）言いづらいことを伝える。クッション言葉、配慮表現の高度化 第3回：ロールプレイ：苦情・トラブル対応 相手の感情を逆なですず、かつ主張を明確に伝える方法 第4回：意見を述べる（1）：短い時事ニュースのコメント P R E P法（結論→理由→具体例→結論）の習得 第5回：意見を述べる（2）：ディスカッション 譲歩表現（確かに～しかし～等）を用いた説得力ある話し方 第6回：説明・プレゼン（1）：データの読み取りと口頭説明 グラフやデータの言語化。推移、比較、相関関係の表現 第7回：説明・プレゼン（2）：グラフを用いた発表 第8回：交渉・合意形成（1）：グループ分け。イベントの企画会議 妥協案の提示、相手の意見を尊重しながら軌道修正会議のファシリテーション。議論の流れを整理し、結論へ導く。 第9回：交渉・合意形成（2） 第10回：イベント企画の発表準備。P P Tの作成 第11回：発表→F B 第12回：発表→F B 第13回：即興ディベート 難易度の高いテーマで討論 第14回：最終スピーチ 質疑応答 ※受講者のレベルに合わせて具体的な授業内容を決定する。 ※グループワークはほぼ毎回行う予定 ※発表（予定）→第2回～5回、7回、11回、12～14回	
<b>3. 履修上の注意</b> ・この授業は、各学部の留学生が必修日本語科目に加えて選択できる科目である。 ・また、正規課程の外国人留学生（学部）に加えて、交換留学生と専門職大学院生も履修可能である。交換留学生と専門職大学院生は、プレイスメントテストの結果、「上級レベル」にプレイスされた学生が履修可能である。 ・詳しくは、シラバス（冊子版）の128ページに記載してある「I 履修について「1. 日本語（上級）を受講できる者」」を確認して欲しい。 ・授業の連絡はメールやクラスウェブを利用	
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b> ・授業で発表を録画するので、各自FBを行い、次回の発表に役立てる。	
<b>5. 教科書</b> 特になし。（必要なプリントは適宜Oh-h!Meijiを通じて配布）	
<b>6. 参考書</b> ・『日本語超級話者へのかけはしーきちんと伝える技術と表現』、荻原稚佳子、2007（スリーイーネットワーク）¥2420	
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b> ・発表を全て録画する。その録画を用いてクラスで改善点を話し合う。	
<b>8. 成績評価の方法</b> ・課題発表40% ・授業の活動40% ・最終スピーチ20%	
<b>9. その他</b>	

科目ナンバー	(JE) LAN981J
科目名	日本語（上級文章表現）A
担当者	黒崎 典子
<b>1. 授業の概要・到達目標</b> 論文・レポート作成に関する基本練習を行う。テーマの立て方、議論の発展のさせ方など、文章構築のための基礎について学習し、特に論述文の基本的なパターンを理解して実践を行う。 学んだことを用いて、話し合いながら文章を磨き、3000字以上の論文を書き上げることを目標とする。	
<b>2. 授業内容</b> 論文・レポートの作成方法を学ぶと同時に、自分自身のレポートを書き進め、執筆、推敲を繰り返しながら最終稿を完成させる。 第 1 回：イントロダクション、論文のテーマについて 第 2 回：文章のスタイルについて学ぶ（1）：日本語文章執筆の基本 第 3 回：文章のスタイルについて学ぶ（2）：話しことばと書きことば 第 4 回：レポート作成の方法（1）：主題（テーマ）の見つけ方 第 5 回：レポート作成の方法（2）：主題文の作り方、アウトライン・構成の作り方 第 6 回：レポート作成の方法（3）：構成メモから文章を作成する 第 7 回：本論の書き方（1）：引用の方法 第 8 回：本論の書き方（2）：引用の方法（演習） 第 9 回：序論、結論の書き方、参考文献の書き方 第 10 回：本論の書き方（3）：図表説明の方法 第 11 回：本論の書き方（4）：図表説明の方法（演習） 第 12 回：推敲の方法、執筆論文のピアリーディング 第 13 回：a: 論文を書き上げるということについて 第 14 回：執筆論文最終稿のチェック、ピアリーディング、総括 受講生と相談の上、順番等変更することがある。	
<b>3. 履修上の注意</b> ・この授業は、各学部の留学生が必修日本語科目に加えて選択できる科目である。また、交換留学生と専門職大学院生も履修可能である。 ・課題作文を提出し、添削されたものを見直し、再度書き直しをして完成させていくため、真面目に取り組む姿勢を望む。課題提出にはプリントアウトしたもの他、Oh-o!Meiji、電子メールも利用する。	
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b> 添削された作文は、必ず書き直しをして再提出すること。配布プリントは論文を執筆する際に必要な技術が書かれているため、授業で使用した後も復習をして、その技術を確実に自分のものとするを期待する。	
<b>5. 教科書</b> 『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他（くろしお出版）、また、授業のために作成したプリントを配布する。	
<b>6. 参考書</b> 『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子他（国書刊行会）、『ピアで学ぶ大学生の日本語表現—プロセス重視のレポート作成』大島弥生他（ひつじ書房）、『この一冊でちゃんと書ける！論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社）等	
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b> 作文を添削したものは授業時に返却するほか、Oh-o!Meijiを利用して返却する。	
<b>8. 成績評価の方法</b> レポート<第一稿及び最終稿>（50%）、授業での作文練習（30%）、授業への参加度（20%）により、総合的に評価する。期末試験は行わない。	
<b>9. その他</b> より良い文章を書くためには振り返ることが大切なため、作文の書き直し、添削後の再提出など、推敲を重ねて完成させるまで真面目に取り組むこと。授業内容の中心は文章表現であるが、口頭表現、文法など、日本語の様々なことごとを取り入れて授業を進める予定である。また、受講生からの日本語に関する質問にはできる限り答えていくので、日本語力向上のために積極的に活用してほしい。	

科目ナンバー	(JE) LAN981J
科目名	日本語（上級総合）B
担当者	坂井 菜緒
<b>1. 授業の概要・到達目標</b>	
<p>【概要】 大学の専門科目できちんとした学びができる総合的な日本語能力を高めることを目的とする、資料収集・読解・要約・プレゼンテーション・質疑・ディスカッションなどの活動を行う。 また、日本語のニュースを取り上げることで、時事日本語に触れ、幅広い語彙力をつける。 特に大学卒業後を見据え、一般社会で通用する日本語力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目の授業で、日本語でテキストや資料を読み解き、自分の言葉でパラフレーズすることができる。</li> <li>・外部資料を使用して、根拠を示しながら自分の意見を述べるができる。</li> <li>・研究活動に必要な大学内外のさまざまなリソースにあたり、自分の研究に活かすことができる。</li> <li>・クラス内発表時のマナーを守り、聞き手を意識しながら説得力のある発表を行うことができる。</li> </ul>	
<b>2. 授業内容</b>	
<p>第1回：イントロダクション・自己紹介 第2回：ウォーミングアップ、自分の経験を語る（忘れられない出来事）ブレインストーミング・テーマの決定 第3回：プレゼンテーション（1）：忘れられない出来事 第4回：フィードバック 第5回：テーマ1：日本の社会問題 情報整理 第6回：テーマ1：日本の社会問題 ディスカッション・応用練習 第7回：フィードバック 第8回：テーマ2：専門を語る 情報整理 第9回：テーマ2：ディスカッション・応用練習 第10回：フィードバック、最終プレゼンテーション準備 ブレインストーミング 第11回：発表原稿の執筆、プレゼンテーション資料作成 第12回：動画作成（1） 第13回：動画作成（2） 第14回：課題提出、グループ発表・まとめ</p>	
<b>3. 履修上の注意</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、各学部の留学生が必修日本語科目に加えて選択できる科目である。</li> <li>・また、正規課程の外国人留学生（学部）に加えて、交換留学生と専門職大学院生も履修可能である。交換留学生と専門職大学院生は、プレイメントテストの結果、「上級レベル」にプレイされた学生が履修可能である。</li> <li>・詳しくは、シラバス（冊子版）の128ページに記載してある「I 履修について「1. 日本語（上級）を受講できる者」」を確認して欲しい。</li> <li>・授業に関する連絡、課題に関する指示などは電子メールやクラスウェブを利用して行う。</li> <li>・授業のスケジュールおよび内容は、履修学生の人数、レベル、理解、興味関心などにより変わることがある。</li> <li>・基本的には、全出席前提で授業を行うので、なるべく遅刻・欠席はしないようにすること。 もし遅刻・欠席したときは、自分で次のクラスまで何をすべきかを確認し、準備して出席すること。</li> <li>・授業内では、グループ活動やペア活動もある。</li> </ul>	
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションのための準備は授業中にも行うが、授業中に終わらなかった作業を課題として課す場合がある</li> <li>・授業での練習・発表の録画ファイル、音声ファイルを各自で確認し、問題点を整理した上で次の練習に役立てる予定。</li> </ul>	
<b>5. 教科書</b>	
授業時にハンドアウトを配布	
<b>6. 参考書</b>	
授業時に指示	
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b>	
授業での発表は原則として全て録画し、クラス全員で改善点を話し合う。	
<b>8. 成績評価の方法</b>	
発表課題（40%）、普段の授業での活動（30%）、最終課題（30%）により、総合的に評価する。 単位認定をするためには2/3以上の出席が必要である。	
<b>9. その他</b>	
様々な外部資料を整理しながら理解し、自分の言葉でまとめること、また、自分の考えを述べる時にそれを効果的に利用し、説得力を持った形で分かりやすく伝えることは、大学での学びにおいてだけでなく、卒業後、一般社会に出てからも必要不可欠な能力である。日常会話レベルではなく、公的な場での日本語の使い方をきちんと身につけることが上級の学生にとっては必要である。特に、日本での進学や就職を考えている留学生は、是非、フォーマルな場での適切な日本語の使い方を学んでもらいたい。	

科目ナンバー	(JE) LAN981J
科目名	日本語（上級口頭表現）B
担当者	酒井 知子
<b>1. 授業の概要・到達目標</b> 【概要】秋学期は、教室を飛び出し、実際の日本人へのインタビュー調査を軸としたプロジェクト型学習を行う。実際の日本人と触れ合いながら、生きた日本語を分析し、発表する。 ・調査のデザイン：自らアンケートやインタビュー項目を作成し、情報を引き出すための「周辺質問」を準備する。 ・リアルな対話：初対面の相手に対する適切な距離感や敬語を実践し、予期せぬ回答にも即座に反応する「談話管理」を鍛える。 ・客観的な分析発表：収集した生データをグラフ化・言語化し、序論・本論・結論の構成で説得力のあるプレゼンテーションを行う。 ・ゼミ形式の発表：ゼミの発表が滞りなく行えるレベルのプレゼンテーション能力を養う。 【到達目標】 授業ではグループによる日本人へのインタビュー調査を行う。まず「対外的なフォーマル会話」として、学外者に対しても失礼のない依頼、質問、御礼ができる配慮表現を学ぶ。実践場面では「即興的な談話管理」を重視し、相手の回答に応じてその場で適切な深掘り質問を重ね、情報を引き出す瞬発力を鍛える。さらに、収集したデータをPREP法等を用いて「論理的に分析・発信」し、客観的根拠に基づいたプレゼンテーション能力を養う。	
<b>2. 授業内容</b> 第1回：イントロダクション グループ分け 興味の共有と役割分担 第2回：フォーマル会話 初対面の日本人への接し方、敬語の再確認 適切な距離感とマナーについて 第3回：調査設計（1）アンケート インタビューの質問項目作成 第4回：調査設計（2）質問項目の精査と情報を引き出すための「周辺質問」の準備 第5回：即興練習（1）インタビューの相槌と深掘り 相手の回答から即座に質問を作成する練習 予期せぬ回答への対応力 ロールプレイ インタビューの開始から終了まで 質問項目再検討・発表 クラス全体で意見交換 第6回：日本人へのインタビュー調査（1）進捗報告、グループ別フィードバック 第7回：日本人へのインタビュー調査（2）進捗報告、グループ別フィードバック 第8回：インタビューの感想発表 分析（1）データの整理、インタビュー書き起こし 重要な情報の取捨選択 第9回：分析（2）データの客観的記述 グラフや回答傾向を説明する表現 第10回：資料作成 序論・本論・結論、考察と結論の論理立て 第11回：資料作成 第12回：発表→F B 第13回：発表→F B 第14回：最終スピーチ 質疑応答 ※受講者のレベルに合わせて具体的な授業内容を決定する。 ※グループワークはほぼ毎回行う予定 ※日本人へのインタビュー（予定）→第6回、7回 ※発表（予定）→第5回、8回、12～14回	
<b>3. 履修上の注意</b> ・この授業は、各学部の留学生が必修日本語科目に加えて選択できる科目である。 ・また、正規課程の外国人留学生（学部）に加えて、交換留学生と専門職大学院生も履修可能である。交換留学生と専門職大学院生は、プレイスメントテストの結果、「上級レベル」にプレイスされた学生が履修可能である。 ・詳しくは、シラバス（冊子版）の128ページに記載してある「I 履修について「1. 日本語（上級）を受講できる者」」を確認して欲しい。 ・授業の連絡はメールやクラスウェブを利用	
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b> ・授業で発表を録画をし、各自FBを行い、次回の発表に役立てる。	
<b>5. 教科書</b> 特になし。（必要なプリントは適宜Oh-h!Meijiを通じて配布）	
<b>6. 参考書</b> 『日本語超級話者へのかけはしーきちんと伝える技術と表現』、荻原雅佳子、2007（スリーエーネットワーク）¥2420	
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b> ・発表を全て録画する。その録画を用いてクラスで改善点を話し合う。	
<b>8. 成績評価の方法</b> ・課題発表40% ・授業の活動40% ・最終スピーチ20%	
<b>9. その他</b>	

科目ナンバー	(JE) LAN981J
科目名	日本語（上級文章表現）B
担当者	黒崎 典子
<b>1. 授業の概要・到達目標</b> 論文・レポート作成に関する練習を行う。テーマの立て方、議論の発展のさせ方など、文章構築方法について学習し、特に説得力のある文章を書くための日本語表現方法について演習する。目的に沿った適切な表現、展開方法の習得を目指す。 学んだことを用いて、話し合いながら文章を磨き、3500字以上の論文を書き上げることを目標とする。	
<b>2. 授業内容</b> 論文・レポートの作成方法を学ぶと同時に、自分自身のレポートを書き進め、執筆、推敲を繰り返しながら最終稿を完成させる。 第 1 回：イントロダクション、論文のテーマについて 第 2 回：文章のスタイルについて学ぶ（1）：日本語文章執筆の基本 第 3 回：文章スタイルについて学ぶ（2）：話しことばと書きことば 第 4 回：レポート作成の方法（1）：主題（テーマ）の見つけ方、主題文の作り方 第 5 回：レポート作成の方法（2）：構成・アウトラインの作り方 第 6 回：レポート作成の方法（3）：構成メモから文章を作成する 第 7 回：本論の書き方（1）：引用の方法 第 8 回：本論の書き方（2）：データ解釈を使って効果的に論じる方法 第 9 回：序論、結論の書き方、参考文献の書き方 第 10 回：本論の書き方（3）：注目のさせ方 第 11 回：本論の書き方（4）：メタ言語行動表現の書き方 第 12 回：推敲の方法、執筆論文のピアリーディング 第 13 回：a:説得力のある文章とは 第 14 回：執筆論文最終稿のチェック、ピアリーディング、総括 受講生と相談の上、順番等変更することがある。	
<b>3. 履修上の注意</b> ・この授業は、各学部の留学生が必修日本語科目に加えて選択できる科目である。また、交換留学生と専門職大学院生も履修可能である。 ・課題作文を提出し、添削されたものを見直し、再度書き直しをして完成させていくため、真面目に取り組む姿勢を望む。課題提出にはプリントアウトしたもの他、Oh-o!Meiji、電子メールも利用する。 ・短いものでも構わないため、日本語でのレポート又は論文の執筆経験があることが望ましい。	
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b> 添削された作文は、必ず書き直しをして再提出すること。配布プリントは論文を執筆する際に必要な技術が書かれているため、授業で使用した後も復習をして、その技術を確実に自分のものとするを期待する。	
<b>5. 教科書</b> 『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他（くろしお出版）、その他、授業のために作成したプリントを配布する。	
<b>6. 参考書</b> 『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』銅直信子他（国書刊行会）、『ピアで学ぶ大学生の日本語表現—プロセス重視のレポート作成』大島弥生他（ひつじ書房）、『この一冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』石黒圭（日本実業出版社）等	
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b> 作文を添削したものは授業時に返却するほか、Oh-o!Meijiを利用して返却する。	
<b>8. 成績評価の方法</b> レポート＜第一稿及び最終稿＞（50%）、授業での作文練習（30%）、授業への参加度（20%）により、総合的に評価する。期末試験は行わない。	
<b>9. その他</b> より良い文章を書くためには振り返ることが大切なため、作文の書き直し、添削後の再提出など、推敲を重ねて完成させるまで真面目に取り組むこと。授業内容の中心は文章表現であるが、口頭表現、文法など、日本語の様々なことから取り入れて授業を進める予定である。また、受講生からの日本語に関する質問にはできる限り答えていくので、日本語力向上のために積極的に活用してほしい。	